

集 会 決 議

私たちは今ここに、四国電力伊方原子力発電所をなんとしてもとめたいという強い思いで、県内外から集まりました。フクシマの悲惨な原発事故を伊方の地で絶対に起こしてはなりません。私たちは原発事故の不安でいっぱいです。

東京電力福島第1原子力発電所の事故は、いまだ原因究明がなされていません。収束の見通しもついていません。関係者の誰も責任をとっていません。しかし、野田首相は夏の電力不足を宣伝し、電気料金の値上げで国民を脅し、大飯原発の再稼働が必要だと真正面から強弁しました。無責任な政治判断によって、安全性を無視して、危険な原発を稼働させることは許されません。いかに電力が必要であったとしても、命にはかえられないのです。

伊方原発の沖合約6キロメートルには中央構造線活断層帯があります。東海・東南海・南海の3連動の巨大地震にいつ見舞われるか分かりません。伊方原発付近は地すべり地帯です。伊方原発の敷地は埋め立て地です。地震による原子炉へのダメージだけでなく、送電線の切断や液状化現象による事故の可能性もあります。

さらに伊方原発1号機と2号機は運転開始から30年以上経過し、老朽化しています。3号機は毒性の最も強いプルトニウムを混合したMOX燃料を使用しています。行き場のない使用済み核燃料の保管も危険材料です。

内海に面している伊方原発が事故を起こせば、瀬戸内海は「死の海」となり、人々は生活自体を根こそぎ奪われます。

原発の安全を担保する手段はありません。原発は「死の灰」を出し続けます。原発を再稼働すべきではありません。

政府は原発推進政策を直ちに放棄すべきです。愛媛県知事と伊方町長は伊方原発の稼働に同意してはなりません。四国電力株式会社は原発を稼働させてはなりません。国民の命と環境を破壊することは社会的にも倫理上も許されません。原発に対する私たちの不安の声を真摯に受け止め、伊方原発の再稼働を絶対にしないことを求めます。

2012年6月10日

「伊方原発稼働阻止！！愛媛県庁包囲行動」参加者一同